

~ Serving the Community and Supporting the Y.M.C.A since 1976 ~



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Protecting Lives from Malaria!*

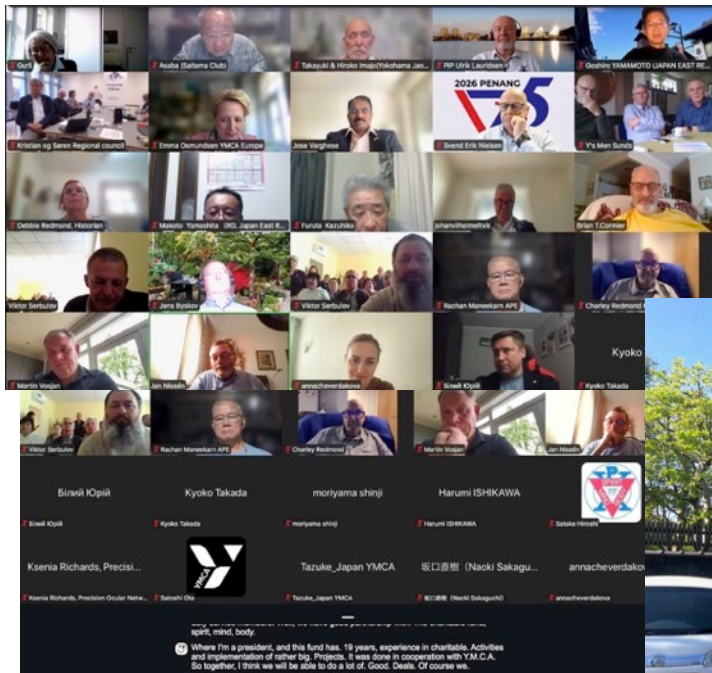
2026
4月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

祝 ウクライナ Y
サービスクラブ

ホルムス海峡の閉鎖に世界が麻痺する不安を覚える。そんな中の朗報だった。4月18日、日本時間22時からウクライナYサービスクラブの設立が首都キーウで実現。デンマークのスズが親クラブ。世界各地からワイズメンがズームで参加。男性が激減した社会でこのクラブの主演は女性。今月の埼玉クラブの例会は元小学校教員の大澤和子メンの話。今も学習サークルで子供達に寄り添い続けている。



[写真メモ] ウクライナYサービスクラブ設立総会にオンラインで招かれ、世界各地からメンが参加した。会員紹介に続いてスライドによるクラブ方針の説明があり、女性が中心的に動く事を強調。図柄は「ウクライナの花」で検索した物。右下は12日に「き咲きてらす」呼びかけの盆栽村NOMPO。外国籍2家族参加。当クラブから伊藤、上松、浅羽が参加。過去最高の24名。

今月の聖句

「しかし、私たちが罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対する ご自分の愛を明らかにされています。」

ローマ人への手紙 5章 8節

5月「母の日」例会

日時：5月18日(月) 10:00~12:00
会場：市民活動サポートセンター (パルコ9階)
学習会：「ジェンダーを学ぶ」

5月夜談(よるだん)会

日時：5月11日(月)：18時~20時
会場：浦和東口「サイゼリア」
*会費：各自の飲食した分のみ。
市民活動を実践する人、興味ある人が安心して知り合い、楽しく会話を進めるうちに異体験を共有し、見識を広げるさばけた大人の集いです。(平均6~10人)

◆◆◆◆◆ イッセイズ ◆◆◆◆◆

◆ 「建築も趣味も長く深く」

高岡敏夫メン



ワイズメンズクラブに入会して1年半ほどになります。多くの方々と知り合えて、色々な話を聞くことができ、大変良い経験ができたと思っています。最近なにかと年齢を感じるが多くなりましたが、この間色々な事(趣味)を経験しました。

私の父は県庁に勤めていました時、自宅では麻雀大会を開いたりしていました。中学時代でしたが、私も参加して二等賞になった事がありました。父からはほかに囲碁や、ビリヤードも教えてもらいました。高校時代です。

大学生になってからは建築に関する事が多かったです。学生時代は課題が多く、旅行はたまに行く程度でした。でも2年生になった時、車の免許を取りました。そうしたら父が中古でしたが車(クラウン)を買ってくれました。もちろん父にも乗ってもらいましたが、友人3人と名古屋と京都まで行き、京都ではあちこち見学しました。さらに広島を経て、同乗した友人の実家のある九州の大分に2泊し、帰路は山陰を回って帰ってきました。



大学卒業後すぐに設計事務所に就職し、始めたのがゴルフと社交ダンスでした。でも時間に余裕があった訳でもなく、仕事は夜中の12時、時には徹夜もありました。仕事人間でした。6年半ほどして父が立ち上げた設計事務所に入りました。それから始めたのがお茶(裏千家)と長唄でした。長唄は毎年新たな曲の発表会で歌うことになりました。

建築設計の仕事は60年6ヶ月続きました。退職したときは既に82歳9ヶ月になっていました。私が設計した建物は350棟ほどありますが、多くは残っていて、今でもよく目にします。趣味の方も長唄、ダンス、お茶と、どれも現役で挑戦中です。◆

◆ 「ウクライナに Y's クラブ誕生」

浅羽俊一郎メン



4月18日の夜、晩酌を我慢してウクライナ・Yサービスクラブの設立式典にオンラインで参加した。2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が未だに続く中でのクラブの設立だ。クラブが国際認証を受けるにはそれなりの厳正な手続きを踏む。国際本部からの認証状(チャーター)が、関係者の見守る中でクラブ会長に手渡される。私にとっては初の国際チャーターナイトだった。画面には式典の模様と、国内外のメンの表情が近くにあり、親近感を覚えた。

式典は新クラブの初代会長のヴィクトル氏(ウクライナYMCA前総主事)がMC。祈祷に続いて新クラブが所属するデンマーク区のヘルム理事が歓迎の挨拶。国際認証状の授与後、全会員が紹介され、それぞれにワイズ・バッジが装着された。

次にスライドを見せながら、クラブの重点目標や戦略が紹介された。クラブ内で国状とメンバー達の力量を充分話し合った結果、初年度(2026~2027)は特に1)若者の自立訓練、2)戦災者の緊急支援と3)復旧期の退役軍人と家族への支援体制づくりが重点課題に決まったと言う。そして活動のどの局面においても女性が積極的に役割を果たすことになるし、そのつもりで計画していく。

クラブ名が都市名でなく「ウクライナ」とある以上、会員はキーウ市外から、さらに北欧、ドイツやアメリカからも遠距離参加するようで、この試みをフォローし、応援したい。

東日本区は2015年にロシアのエカテリンブルグ市のクラブから当時15歳の男子を短期留学生として受け入れたことがあった。その前年、ロシアによるウクライナのオデッサ占拠があったが、日本のワイズはワイズ精神で彼を受け入れていた。そのことを今回思い出し、さらに思い出した。過去に政府レベルの関係とは別次元で、国境や民族の隔てを越えた同じ価値観の民間団体が交流に貢献したことを。利害抜きでYMCAや赤十字が典型だ。今回のウクライナ・サービスクラブの設立でワイズ運動も当事国間の民間交流に寄与すると思う。

閉会后画面上メンは皆笑顔で退出。その後の一人晩酌。缶ビールが美味かった。◆

*Y's Men's Clubという名称自体に多くの女性がこの団体の改善できない体質を見る。Yサービスクラブはその別称として女性の多いクラブに増えつつある。

* 以下は世界 YMCA 同盟の 2026 年 4 月 1 日付 HP 掲載記事をグーグル翻訳し一部短縮・編集したものです。

YMCA 退職者：ベネズエラ Y のドン・エルナン
エルナン・アントニオ・ロメロ・マトゥテ、通称
ドン・エルナンは先日 100 歳の誕生日を迎えた。ベ
ネズエラ YMCA (以下“Y”) の創設者で唯一存命。
南米の青少年育成に 62 年を捧げた。自伝執筆を提
案されて「大切なのは功績を認められることよりも
若者の心にどれだけ影響を残したか」と答えている。
1926 年 1 月ベネズエラはマラカイボ生まれ。倫理観
の強いクリスチャン家庭は父が医師で母が教育者。
幼い頃から教会で活動し、20 歳でカラカスにベネズ
エラ Y 設立 (1946) に尽力。世界 YMCA 同盟 69



番目の加盟国にした。

情熱的スポーツマンで、バレーボール、陸上競技、
水泳に打ち込み、国技の野球が大好きだった。中央
大学で教育学の学位取得後、奨学金を得てウルグア
イのモンテビデオ技術専門学校で専門課程を修了。
1950 年 12 月に Y ディレクター資格を取得後、複数
の Y を創設し、全国 Y 同盟の総主事をも務めた。
1954 年 (28 歳) にベネズエラの優良スポーツマン
に贈る YMCA 賞を創設し、1962 年から 67 年まで彼
のリーダーシップで Y はアナコ、バルキシメト、マ
ラカイボ、モロン、バレンシアなどに拡大し、首都
カラカスには 21 のセンターが開所した。

ドン・エルナンは 2005 年にはベネズエラ・スポ
ーツ殿堂入りし、ラテンアメリカ・カリブ海地域の
Y 退職者グループ「ラティネット」の創設に参画。

ドン・エルナンのモットーは彼の精神そのままだ。
「揺るぎなく前進し、恐れることなく、信仰と喜び
をもってこの世界を注意深く歩み、常に他人のため
になすべきことを成し遂げるよう励む。」

* 世界 Y 同盟 HP によると各地で Y 運動に貢献した退
職スタッフの物語を募集している。(編集士)

* 埼玉クラブが埼玉 YMCA にもっと親近感をもって支
援できるように普段見られない活動のスナップを YMCA
職員がブリテンを通して共有してくれています。

15 名の新入園・転入園児を迎え、41 名の 2 歳から
5 歳児でスタートを切った 2026 年度の幼稚園「キッ
ズアカデミー」。4 月 10 日の入園式には、子ども達
は制服に初めて袖を通し、お父さんやお母さんに見
守られ、少し緊張した面持ちで参加しました。

入園式から半月が過ぎ、3 歳児クラスでは既に、片
付けの時間に「も
っと遊びたかった」
と床で寝転んで泣
いているお友達に、
急かしたり注意し
たりするのではなく、
自然と寄り添い、
頭を撫で、タ
オルケットをかけて
慰める姿がありました。



YMCA の守られ
た空間で、子ども
達は多くの経験を
重ねながら、友だ
ちや自分の感情と
ぶつかり合い、向
き合い、小さな成
功や達成を共有し
ています。



キッズアカデ
ミーでは、英語で
のイメージン
保育を軸に据え
て、一人ひとりが
のびのびと遊び、
学び、自分らしく
表現できる環境
づくりを大切に



しています。そして周りの仲間と世界に目を向け、
言葉や文化、宗教や国籍の違いを越えて互いを理解
し、認め合い、助け合うことを通して、自信をもっ
て育つことを願っています

文責：青柳真理子 (国際・語学部主任)

* 子供達の写真掲載は保護者の了解を得ています。
* キッズアカデミーは 2 歳から 5 歳を対象とした英語教
育、水泳等スポーツ、野外活動、地域活動、国際理解を
含む総合保育プログラム。月～金 9:30～14:30。活動前
後に保育あり。以上 HP の情報より (編集士)

活動・会議メモ

◆ 4月「夜談会」

4月13日の夜段階は、前回の打ち合わせに基づいて2部構成で開催した。第一部は18:00から1時間ほどサポセンのラウンジのテーブルで全員が参加できる話し合い。初回は今まで時々ワイズの集会に



参加していた于氏。彼の発案でAIで変わる私たちの社会について話しました。ICT社会からAI社会への移行は単に高速処理・生産効率など経済効果だけ見ては見落とす影響を語り合った。今まで思い込んでいた数十年後の世界、実は数年後になるかもしれない。いつもと違う時間帯でのサポセンでの活動。職員に写真を取ってもらった。感謝。

今までサイゼリアの4人用テーブルだと、別テーブルに座ると話題がバラバラになったが、今回は皆で意見を共有することができた。第二部のサイゼリア・タイムは4人とこじんまり。(浅羽 記)



* ゲスト：于、浅香、長谷川

* メン：衣笠、高岡、浅羽

◆ 4月「レンゲ草」例会

4月20日(月)午前10時からサポセンのラウンジの奥のテーブルを二つ繋いで開会。今回のプログラムは大きく二つ。入会式と卓話。まず当クラブに新メンバーが与えられて、彼の入会式。昨年「き咲きてらす」によく来館し、ワイズの会にも出席してくれた金子恒夫氏を、今年初の初めにお誘いしたところ快く応じてくれた。タブレット端末から水無瀬メンと十勝クラブから東日本区の山下真一理事が出席。そして卓話講師の大澤和子メン(所沢クラブ・EMC主任)から祝辞を頂いた。感謝!



次は卓話「その子らしい輝きを応援したい」で大澤メンが熱く語った。40年強の小学校教員生活の最後

に任されたのが崩壊した6年の学級。それも元々の担任の後を継いで2学期の後半から卒業までの数ヶ月。でも毎日子供たち一人ひとりと向き合った結果、喜ばしい卒業と退職を迎えることになった。



その経験からジョイサービスを立ち上げ、今に至るまでジョイスタディなどの事業をコツコツと続けている。大澤メンの話は理屈でなく、子供達がどう育ったか現場で見続けたから話せた物語。

「ダメしか教師」なんてあり得ない。先生と生徒は「生きる」の字で重なっている関係なのだ。若い教員や保護者に聞かせたいと思った。(浅羽 記)

[ゲスト/ビジター] アリスン、大西、浅羽 m、山下(十勝)、大澤(所沢)、宮地(所沢) [メン] 伊藤、上松、金子、衣笠、桜井、高岡、水無瀬、浅羽(敬称略)

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
4夜談会(4/13)	6	3	3
4月例会(4/20)	14	8	6



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会(Y's Men International)は青少年教育団体YMCAを支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたい方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストでも一緒に活動できます。

* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)